

障害者200人商店街へ

高知市 店側も“心の接客”

「街へ出よう、One Store」をテーマに「障害のある人にもっと街に出てきてもらおう」という試み「ひとまちあひつエスタ」が11月、高知市の中心商店街で行われた。入り口に段差があったり、車いす用トイレなどのない店も、携帯筆談器を構えるなど、心のバリアフリーを前面に出して接客。肢体不自由や聴覚障害、知的障害のある人ら約200人が訪れ、冬の街歩きや買い物を楽しんだ。(浜崎達朗)

初の「ふれあひフエスタ」

「障害者週間」(12月3～9日)に合わせ、県や県庁、3家、介助者らと街中を行き交った。

このうち、聴覚障害の会社協などつくる実行委員、中越早紀さん(26)＝同市中央通りは眼鏡店へ。店員が「巨匠」街に来る機会を知ってほしい」と企画し、好きな色などのやりとりを、月に1回は家族や訪れた人はまず、協力店約40店の「簡単な手話通訳できます」などといった情報の一覧表と、各店舗の場を記した手書きのマップをスタッフが受け取り、この店に行こうかと思

も人もあるの「聴覚障害者、利用した(高知市市帯屋町1丁目)携帯筆談器を使った接客で、



ように用意したい」。中心商店街では女性部のメンバーが2002年から手話の実行委員長で自身も電動車いすに乗る西本武士さん(26)は「障害者の中には設けられているはず」と話して備面から「街は不便」と思

「きょう、街に来てよかつた」。「フエスタ」では連つ障害のある人同士が初めて出会う場面も。先天性の重度重複障害で常時、酸素吸入が欠かせない宇賀智子さん(26)＝高知市長浜1は介助者とサインボード(シヨウビン)を連携。少しはしゃぎ過ぎて疲れ、帯屋町1丁目のてんぐすの奥にある授乳室で横になった。

だがこの日、智子さんにはまだやりたいことが。それは「聴覚障害のある人と手話で話したい」。日ラ、テレビ講座などで勉強している手話を体験するのを楽しみにしていたのだ。

スタッフを紹介してそのことを聞き、駆け付けたのは聴覚障害のある山崎卓(すく)さん(37)＝同市着野町1。智さんが「私は宇賀智子です。歌が好きです。今度、作業所のクリスマスコンサートをやるので見に来てください」と手話で伝えると、山崎さんも「ぜひ、行きたい。作業所はどこにあるんですか?」と応じ、会話が弾んだ。

2人は「ほかの障害のある人と手話でコミュニケーションしてきたいのは初めて。来てよかつた」。街中の出会いに笑顔が広がった。(広末智子)

街に来て、よかつた！ 障害者同士 手話で交流も